

## 隣接地域における地域からの意見把握等について

### 1 目的

第4期知床半島エゾシカ管理計画において、「狩猟と許可捕獲頭数のバランス調整を行うために、関係機関や団体と協議する場を毎年設ける」としている。

隣接地域については、様々な利害関係者が生活する非遺産区域であり、生活圏でもあることから、地域から出される意見にも配慮することが必要である。

意見への対応については、一般狩猟を調整することは難しいものの、行政が行う有害捕獲や個体数調整などの許可捕獲については一定の調整が可能であることから、遺産価値の保全を第一義としつつも、捕獲圧の強弱や捕獲場所・捕獲手法などの必要な調整を行うことにより、地域の理解を得ながら管理計画を進めることが、隣接地域における管理のあり方のひとつでもあるとの考えによるものである。

こうした意見把握を捕獲状況や生息密度調査の報告と併せて実施するとともに、地域が受け止めている密度感を継続的に把握することにより、そのトレンドのモニタリングを通じて、適正な密度の合意形成を目指すものである。

なお、意見把握については、秋を目途に意見を聴取し、結果を第2回WGにおいて報告、調整に関する意見が出された場合には、必要な調整内容を検討したうえの捕獲計画を翌年の第1回WGにおいて報告・提案を行う。

### 2 2022(令和4年度)の結果

#### ①調整に対する意見

- ・ 斜里町、羅臼町ともになし。

#### ②密度感に対する意見

- ・ 両町ともに、個体数は長期的減少しているとの認識を持っており、概括的には許容できている印象。
- ・ 一方で、個体数の地域的な偏りや、見えていないだけではないかとの懐疑的な意見もあり。
- ・ 今後も継続的に捕獲圧をかけ続けることを求められている。
- ・ 羅臼町においては低密度の実感は薄く、捕獲要望が強い。

#### ③その他の意見

- ・ 国有林への狩猟区域の確保への要望。
- ・ 輪採制の見直しに関する意見。
- ・ 弾薬の確保に関する懸念。
- ・ 狩猟と管理捕獲の棲み分けによる効率的な頭数調整への意見。

斜里町 2022.10.19 参加者15名	羅臼町 2022.10.21 参加者4名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年程前から比べると、かなり減っていると感じるが、まだ車輛事故が絶えない。植生被害もでているということなら、<u>まだ減ってもよいのではないか。</u></li> <li>・観光資源と見ることもできるかも知れないが、たまに見られる方が感動があるのではないか。</li> <li>・数年前の林野庁職員の誤射事故による禁止区域拡大の影響で、ほとんどの林道が入ることができない。入れる頃には積雪により車で奥まで入ることができなくなる。</li> <li>・狩猟の捕獲数は年々減少している。輪採制も16年目となり、もっと効率よく捕獲できるように見直しをしてほしい。</li> <li>・ガイドもしているが、<u>20年前はかなりのシカがいたが今はあまり出会わない。</u></li> <li>・昨年は雪が多かったため、目に付く場所にたくさんのシカがいた。</li> <li>・捕獲した個体を有効利用しているとのことだが、捕獲数が確保できないと利活用を続けるのは難しいのではないか。</li> <li>・15年前に利活用施設を作った当時は、<u>1,700~1,800頭/年程度持ち込まれていたが、現在は300頭を切っていると思う。ここ数年はコロナの影響もあり非常に低迷。現状は他の地域からシカを確保しなければならぬため、非常に不経済な状態にある。</u></li> <li>・<u>頭数は増えている印象はないが、減っている感じもしない。地域ごとに偏っているのでは。</u></li> <li>・ハンターも高齢化しており、今までどおりに確保できないのではと感じる。</li> <li>・減りすぎとは考えていない。<u>現状が手頃ではと考えているが、事業を営む立場としては苦労している。</u></li> <li>・利活用していくためには数もいなければならない。一方で駆除も進めなければならないのであれば、シカを繁殖させる特区を作れないか。</li> <li>・減った増えたという感覚的なものより、このくらいが適切との指針がなければ住民としてはわからない。</li> <li>・住民としてこのくらいで良い、との感じた生息密度を把握すればよいのではないか。そのためどのくらいの数が良いかの感覚を聞いているのではないか。</li> <li>・狩猟は趣味でもあるので管理とは簡単に結びつかないが、狩猟の捕獲数も無視できない数字。狩猟と有害捕獲を棲み分けることにより、ムダな税金を使わなくてもシカの管理・生息頭数の調整ができるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道/道道上の死亡個体の回収を請け負っているが、<u>10年程前に比べると回収数は減っており、ここ2~3年は10~15頭/年程度。</u></li> <li>・できれば(回収)処理は行いたくない。処理依頼はいつくるか判らず、夜だと起こされて回収に行く。置き場所もなく、車庫等に置いておくが処理場が休みだと休み明けに搬出するため、腐敗も進む。シカが轢かれないう、<u>広範囲な捕獲や柵の設置など環境整備をしてほしい。</u></li> <li>・林道から入林して狩猟できる箇所が少ないため不自由に感じている。特に風が強い日は草原にシカはいないために全く猟にならない。</li> <li>・減ったということではないが、最近、狩猟期間が近づき隠れるのがうまくなり、日中見かけなくなった。</li> <li>・春先に草地の中に隠れている子ジカを誤って草と一緒に農機具で刈ってしまうことがあるが、<u>草地の中の子ジカの頭数は変わらず、増えている印象がある。</u></li> <li>・調査の発見密度は下がっているというが、<u>見えづらくなっているだけではないか。</u>朝、牛を放牧する際に牧草地を見ると30頭くらいのシカがいる時も、<u>数が減っているという感じはしない。</u></li> <li>・狩猟圧がかかると、日没から日の出までしかその場所にはいない、というように時間帯を覚えてしまう。</li> <li>・同じ牧草地でも、クローバーのある場所や人目に付かない場所は覚えており、低気圧が近づいている日は早めに草地で出てきて食いだめをする。</li> <li>・シカに場所を覚えられると被害が出る。ジャガイモ畑は古多糠や薫別ではシカ柵がないと育てられないが、例えば海岸町では被害は少ない。シカが食べられるものだと覚えていないからだ。だからといって、収穫したイモを放置しておく覚えられてしまい、次の年からは被害が出る。</li> <li>・<u>農作物に対するシカ被害は10年前に比べ減った感じはしない。</u>しかし、<u>民家の花畑を網が囲うことをしているが、シカが網にからまるという声は最近では聞かない。</u></li> <li>・羅臼に住んで10年になるが、<u>ここ数年、湯ノ沢地区で見かけるシカがとても多い。</u>海岸町ハシコイ付近でも多く、風のない暖かい夜の走行は怖い。</li> <li>・牧草ロールも被害に遭うため柵設置している農家もある。人目に付かない場所だと被害に</li> </ul>

あうが、吹きさらしや道路から見るところに置くと被害にはあわない。ロールは破られてすぐだと使用できるが、時間が経つと内部で二次発酵が進み一個まるごとダメになる。

- ・シカの被害額にはロールの額も含めるべき。
- ・シカの数減ったとしても、捕獲の手を緩めないでほしい。
- ・今、銃の雷管の在庫がない。火薬も昨年だと1缶1.5万円だったものが今は2.5万円近くに値上がりしている。以前なら1発600円程度のものが今は千円程度にまで上がり、散弾はもっと高額になっており、弾丸が手に入りづらくなっている。
- ・銃は弾丸と火薬を合わせなければ命中精度が落ちるため、合わせるために必要な練習にかかる費用も大きくなっており、大きな負担となっている。
- ・駆除用に買った弾は次年度へ繰り越すことができないため、次年度は弾の調達ができなくなるかも知れない。
- ・斜里の方ではシカは減ったという意見が多いが、羅臼では「減った感じがしない」というのは、頭数の減り幅が斜里の方が大きいいため、そう感じるのではないか。

<参考>	2011発見頭数	2021発見頭数	2021発見密度	4.78	
斜里	713頭	220頭			<u>31%</u>
羅臼	453頭	303頭			<u>67%</u>
			"	2.14	

- ・羅臼の街の中に、子ジカを置いて近くで見守るような親ジカもおり、住民もかわいいので見守る。それが人慣れを進める要因になっているかも知れない。
- ・市街地に入ってくるシカに対し以前は吹き矢で捕獲した時期もあったが、今はあまり対策をしていない。人慣れはしていても、吹き矢を持って近づくと逃げてしまうことがあるが、対応をしていけば街の中のシカは減ると思う。

表1-1. 隣接地域における生息密度及び捕獲頭数（斜里町側）

モニタリング ユニット名	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期					捕獲頭数計	備考
	実行計画（シカ年度表記）		2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
S07 宇登呂	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	221 16.41	-	-	-	-	58 4.31	-	-	-	-	44 3.27	面積=13.47km2 発見密度=上段値÷13.47km2
	II. 捕獲頭数（実績）		10	-	-	88	87	139	56	33	49	38	42	47	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）			斜 10			斜 53 林 35	斜 45 林 42	斜 55 林 84	斜 9 林 47	斜 6 林 27	斜 20 林 29	斜 24 林 14	斜 15 林 27	斜 7 林 40	斜 244 林 345
S08 遠音別	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	435 19.19	-	-	-	-	91 4.01	-	-	-	-	121 5.34	面積=22.67km2 発見密度=上段値÷22.67km2
	II. 捕獲頭数（実績）		82	68	29	64	120	124	85	28	33	33	91	33	
捕獲主体内訳（頭）			狩 82	狩 68	狩 29	狩 64	狩 72 林 48	狩 41 林 83	狩 44 林 41	狩 8 林 20	狩 12 林 21	狩 21 林 12	狩 33 林 58	未集計 斜 4 林 29	狩 474 林 312
S10 真鯉	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	57 5.78	-	-	-	-	32 3.25	-	-	-	-	55 5.58	面積=9.86km2 発見密度=上段値÷9.86km2
	II. 捕獲頭数（実績）		289	268	145	172	187	164	104	59	76	61	78	17	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）			狩 184 斜 105	狩 163 斜 105	狩 94 斜 51	狩 149 斜 23	狩 129 斜 29 林 29	狩 111 斜 34 林 19	狩 61 斜 32 林 11	狩 27 斜 15 林 17	狩 35 斜 32 林 9	狩 14 斜 47 林 0	狩 14 斜 64	未集計 斜 17	狩 981 斜 554 林 85
オシンコシン～真鯉地区 日中カウント調査 最大発見頭数（頭）			505	757	517	472	238	192	121	40	110	75	143	524	知床財団独自事業 三段の滝（オショコマナイ川）～オチカ バケ川の国道334号線沿い（延長約 12km）

表1-2. 隣接地域における生息密度及び捕獲頭数（羅臼町側）

モニタリング ユニット名	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期					捕獲頭数計	備考
	実行計画（シカ年度表記）		2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
R14 サシルイ	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	85 3.55	-	-	-	-	141 5.89	-	-	-	-	129 5.39	面積=23.95km2 発見密度=上段値÷23.95km2
	II. 捕獲頭数（実績）		-	13	20	22	23	37	12	17	16	3	16	0	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）				羅 13	羅 20	羅 22	羅 23	羅 37	羅 12	羅 17	羅 16	羅 3	羅 16		羅 179
R16 羅臼	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	100 7.72	-	-	-	-	124 9.58	-	-	-	-	58 4.48	面積=12.95km2 発見密度=上段値÷12.95km2
	II. 捕獲頭数（実績）		-	58	44	27	39	37	23	50	4	7	1	5	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）				羅 58	羅 44	羅 27	狩 2 羅 37	狩 2 羅 37	狩 2 羅 21	羅 50	羅 4	羅 7	羅 1	未集計 羅 5	狩 4 羅 291
R17 知西別	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	76 3.75	-	-	-	-	25 1.24	-	-	-	-	16 0.79	面積=20.24km2 発見密度=上段値÷20.24km2
	II. 捕獲頭数（実績）		34	81	51	25	49	38	40	57	74	23	31	23	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）			狩 34	狩 54 羅 27	狩 23 羅 28	狩 19 羅 6	狩 17 羅 32	狩 16 羅 22	狩 7 羅 33	狩 17 羅 40	狩 12 羅 62	狩 7 羅 16	狩 13 羅 18	未集計 羅 23	狩 219 羅 307
R20 春茹古丹	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	192 5.72	-	-	-	-	107 3.19	-	-	-	-	97 2.89	面積=33.58km2 発見密度=上段値÷33.58km2
	II. 捕獲頭数（実績）		28	172	89	17	28	28	12	30	28	48	60	13	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）			狩 24 林 4	狩 32 羅 44 林 96	狩 8 羅 25 林 56	狩 14 羅 3	狩 14 羅 14	狩 10 羅 18	狩 11 羅 1	狩 6 羅 8 林 16	狩 3 羅 5 林 20	狩 8 羅 9 林 31	狩 7 羅 19 林 34	未集計 羅 7 林 6	狩 137 羅 153 林 263
R21 陸志別	I. 航空カウント調査	上段：発見頭数（頭） 下段：発見密度（頭/km2）	-	0 -	-	-	-	-	60 1.17	-	-	-	-	3 0.06	面積=51.17km2 発見密度=上段値÷51.17km2
	II. 捕獲頭数（実績）		40	50	23	64	25	85	48	79	73	39	118	54	
捕獲主体別 捕獲頭数内訳（頭）			狩 40	狩 46 羅 4	狩 23	狩 46 羅 18	狩 20 羅 5	狩 62 羅 23	狩 34 羅 14	狩 52 羅 27	狩 48 羅 25	狩 22 羅 17	狩 36 羅 82	未集計 羅 54	狩 429 羅 269

表1-3. 隣接地域における生息密度及び捕獲頭数（隣接地域計）

捕獲地域	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期					第2期					第3期					捕獲頭数計	備考
	実行計画（シカ年度表記）		2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)					
斜里町側	発見頭数計（頭）		-	713	-	-	-	-	181	-	-	-	-	220	/	2999	S07 宇登呂、S08 遠音別、S10 真鯉 面積=13.47+22.67+9.86=46km <sup>2</sup> 発見密度=上段値÷46km <sup>2</sup>		
	発見密度（頭/km <sup>2</sup> ）		-	15.50	-	-	-	-	3.93	-	-	-	-	4.78					
	捕獲頭数計（頭）		381	336	174	324	394	427	245	120	158	132	211	97					
捕獲主体別	捕獲頭数内訳（頭）		狩 266 斜 115	狩 231 斜 105	狩 123 斜 51	狩 213 斜 76 林 35	狩 201 斜 74 林 119	狩 152 斜 89 林 186	狩 105 斜 41 林 99	狩 35 斜 21 林 64	狩 47 斜 52 林 59	狩 35 斜 71 林 26	狩 47 斜 79 林 85	未集計 斜 28 林 69	狩 1455 斜 802 林 742				
	発見頭数計（頭）		-	453	-	-	-	-	457	-	-	-	-	303	/	2251	R14 サシルイ、R16 羅臼、R17 知西別、R20 春刃古丹、R21 陸志別 面積=23.95+12.95+20.24 +33.58+51.17=141.89km <sup>2</sup> 発見密度=上段値÷141.89km <sup>2</sup>		
発見密度（頭/km <sup>2</sup> ）		-	3.19	-	-	-	-	3.22	-	-	-	-	2.14						
捕獲頭数計（頭）		102	374	227	155	164	225	135	233	195	120	226	95						
捕獲主体別	捕獲頭数内訳（頭）		狩 98 林 4	狩 132 羅 146 林 96	狩 54 羅 117 林 56	狩 79 羅 76	狩 53 羅 111	狩 88 羅 137	狩 54 羅 81	狩 75 羅 142 林 16	狩 63 羅 112 林 20	狩 37 羅 52 林 31	狩 56 羅 136 林 34	未集計 羅 89 林 6	狩 789 羅 1199 林 263				
	発見頭数計（頭）		-	1166	-	-	-	-	638	-	-	-	-	523	/	5250	面積=46+141.89=187.89km <sup>2</sup> 発見密度=上段値÷187.89km <sup>2</sup>		
発見密度（頭/km <sup>2</sup> ）		-	6.21	-	-	-	-	3.40	-	-	-	-	2.78						
捕獲頭数計（頭）		483	710	401	479	558	652	380	353	353	252	437	192						
隣接地域計	捕獲頭数計（頭）		狩 364 斜 115 林 4	狩 363 斜 105 羅 146 林 96	狩 177 斜 51 羅 117 林 56	狩 292 斜 76 羅 76 林 35	狩 254 斜 74 羅 111 林 119	狩 240 斜 89 羅 137 林 186	狩 159 斜 41 羅 81 林 99	狩 110 斜 21 羅 142 林 80	狩 110 斜 52 羅 112 林 79	狩 72 斜 71 羅 52 林 57	狩 103 斜 79 羅 136 林 119	未集計 斜 28 羅 89 林 75	狩 2244 斜 802 羅 1199 林 1005				

注1：航空カウント調査のデータは「公益財団法人知床財団 2021. 環境省請負業務 令和2年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人知床財団」p. 20 表7による。

注2：斜里町、羅臼町、林野庁における捕獲頭数は有害捕獲事業による捕獲頭数。

注3：斜里町における捕獲頭数のうち、2010年から2012年の捕獲頭数は、農林水産省緊急捕獲補助金による捕獲頭数（北海道庁所有のデータ）を集計。2013年から2020年の捕獲頭数は、町の有害捕獲奨励金の支出対象となった捕獲頭数にその他有害捕獲事業による頭数（計176頭）を加算して集計（斜里町所有のデータ）。

注4：羅臼町における捕獲頭数は、農林水産省緊急捕獲補助金による捕獲頭数（羅臼町所有のデータ）を集計。

注5：一般狩猟の捕獲頭数は捕獲許可証記載の頭数（北海道庁所有のデータ）を集計。

注6：捕獲頭数の集計対象としたメッシュは別添の位置図を参照。

注7：捕獲頭数については、捕獲主体別の内訳を記載（狩：一般狩猟、斜：斜里町、羅：羅臼町、林：林野庁）。

注8：表中の一部の植生モニタリングユニットにおいては、エゾシカ航空カウント調査の対象範囲は遺産地域を含む。